

## 2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 90213 単位数 : 2

科目名	教育原理	科目責任者	牛田 伸一
課題と試験担当教員	大崎 素史		
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC151		

## ■ 科目概要

教育原理の授業は、教育のことを学習・研究するに際しての原理的あるいは総論的な知識・考え方・課題などを扱うものである。

テキスト学習においては、メディア学習（DVDによる学習）は無い。レポート提出は、第1課題と第2課題の2通が必要である。

## ■ 到達目標

教育とは何か、どのようにあるべきかを念頭に置きながら、歴史的社会的な視点からさまざまな分野の教育の事情を学ぶことによって、教育に対する基礎的基本的な情報を理解するとともに、今後のあるべき教育の在り方について自分なりの考えを自覚できるようにすることをねらいとする。

## ■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
教科書・第1章・第1節「本書での教育についての考え方」	「教育とは、人間、とりわけ、子どもをよりよくしようとする働きかけ」という定義を中心に、「よい」という判断、教育の人間主義、学習中心主義などを学習する。
教科書・第1章・第2節「教育の概念」（2回に分けて扱う）。	「公教育・私教育」の概念(西洋とわが国の歴史を含む)、「教育」の語義(本書が採用する定義ではなく、一般的・歴史的に教育理論や教育学で使われてきた「教育」についての意味内容、使われ方を「語義」とする)について。具体的には、educationとinstruction、教育、おしえる、そだてる、まなぶ、ならう、について。
教科書・第1章・第2節「教育の概念」	学校教育、家庭教育、社会教育の法制度上の定義について。なお、具体的には、歴史上の変遷について、現行法上の規定を中心とする。
教科書・第1章・第3節「教師論」	戦後わが国の教師論3つの分類、およびあるべき教師論について。
教科書・第1章・第4節「子ども論」	「子ども」について、わが国の法制度上の規定の多種多様性を扱う。たとえば、幼児、児童、生徒、学生、少年などについて。
同上	同上
同上	同上
教科書・第2章「学校—その歴史と展望—」第1節～第5節	学校の機能(任務)、近代学校以前の学校と以後の学校、学校体系、種々の課題（学歴社会、脱学校論など）について。

学習範囲 該当する章など	学習内容
教科書・第2章・第6節「法律に定める学校」とその他の教育機関	教育基本法以下に法規定されている学校制度と学校以外の教育機関（民間の学習塾、予備校など）、社会教育施設、児童福祉施設などを扱う。
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上
科目試験の範囲については、機関誌『学光』であらかじめ指示する。	

## ■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	「教育」ということについての理解の深さ・適正さと改善のための課題提示や問題関心・問題提起の適正さを評価する。 なお、本学通信教育部の規定によるA・B・C（以上合格）・D（不合格）評価による。
レポート	レポート課題に適切に対応しているかどうかがまず前提になる。具体的には、説明文を求められているものか、論述式が求められているものか、の区別が必須である。 次に、引用の仕方が適切であるかどうか。参考文献を掲げているだけではあまり意味がない。引用文献こそが重要である。

## ■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

## ■ 教科書

**書名：**はじめて学ぶ教育心理学  
**著者名：**吉川 成司 (著), 関田 一彦 (著), 鈎 治雄 (著)  
**出版社名：**ミネルヴァ書房  
**出版年：**2016年  
**版：**2 版  
**刷：**  
**ISBN：**9784623074488

## ■ 参考書

基本的で、直接の参考書は、教科書本文中の引用文献・参考文献です。  
 また、図書館などに行き目につく教育学事典類にもたくさんの出典文献などが掲載されているので参考になります。さらに、ネット検索による利用はもちろん役立ちます。

## ■ 履修上のアドバイス

教育学（全般）を履修する上で最も基礎的基本的な教科です。「教育」とは何か、どうあるべきか、という基本的な問題関心から取り組んでいただきたい。対象は、学校教育だけに限られません。具体的で小さな問題関心を持って臨まれると効果的だと思います。

教科書の内容を覚えていくというのではなく、まず理解するという心を心がけることをお奨めしたい。さらに、教科書の内容に対する自分の問題意識・問題関心を意識しながら読んでいくことをお奨めしたい。

## ■ 自習時間

---

1つのレポート作成には、およそ3～5時間かかると思われるし、また最少それぐらいの労力はかけるべきである。

## ■ 担当者のプロフィール

---

大崎素史

大分県生まれ。昭和44年東京大学教育学部卒業。昭和51年同大学大学院博士課程満期退学。同年創価大学通信教育部インストラクターを経て、教育学部講師・助教授・教授を歴任。平成27年度から名誉教授（現在は非常勤講師）。この間、図書館長、教職キャリアセンター長等、大学院文学研究科の授業、教職大学院の授業、通信課程のスクーリング等の授業などを兼担。